

## 外科 研修プログラム【必修】

必須としての外科研修は4週間です。

将来一般消化器外科や乳腺外科を希望する場合は、さらに12週コースを選択していただきます。

### (必須研修)

初期研修として必須科目であり、将来外科系以外にすすむ研修医の先生においても、周術期の管理、特に輸液の基本と手術参加により皮膚切開、縫合処置等の外科テクニックを習得する研修を行います。また各種画像の読影をふまえて、症例プレゼンテーションの基本を習得していただきます。希望により検査見学も可能です。(上部消化管内視鏡、大腸内視鏡など)

1. 症例検討のプレゼンテーション (前もって指導医と画像を読影)
2. 各種輸液ルート確保の研修 (手技上の合併症や代謝上の問題点、利点につき理解する)
3. 皮膚切開と縫合の実践
4. 周術期管理、特に輸液管理の基本を習得
5. 栄養サポートチームや緩和ケアチームに参加し、チーム医療の重要性を学ぶ

### (選択12週コース)

このコースは外科系医師になることを前提としています。2年目として以下のことを研修していただきます。希望により検査の術者としての研修も可能です。(上部消化管内視鏡、大腸内視鏡など)

1. 症例検討のプレゼンテーション
2. 中心静脈カテーテル挿入の術者 (但し指導医と共に行う。)
3. 術者として急性虫垂炎、鼠径ヘルニア、痔核の経験 (腹腔手術も含む)  
(インフォームドコンセントもできるようになる)
4. 腸吻合、開腹時の胆嚢摘出術の術者も必須と考えています。研修が順調である研修医は、幽門側胃切除や結腸切除も考慮する。(腹腔鏡手術を含む)
5. 急性腹症患者の術者および周術期管理 (十二指腸潰瘍穿孔、大腸穿孔など)
6. 栄養サポートチームや緩和ケアチームに参加、プレゼンテーションの担当
7. 乳がん手術の助手参加 (希望あれば乳腺外科を主に研修可能)
8. 希望があれば抹消血管外科手術 (下肢静脈瘤治療)に参加
9. 研究会、地方会などでの発表
10. 症例報告を論文化する(外科専門医になるためには必須)

以上の必須4週と選択12週コースを研修することで、消化器外科、乳腺外科、抹消血管外科の研修が可能です。3年目以降(後期研修医期間)で心臓外科、呼吸器外科を習得すれば外科専門医は習得可能です。中規模病院でのメリットである初期研修期間内の術者経験数が多いことにより、早く外科専門領域へのステップアップとテクニックを習得できるプログラムです。